

## 齋藤 紀医師(わたい病院医師)川俣町山木屋地区で講演会

4月23日(土)川俣町山木屋地区にて「原発事故による放射能汚染と健康被害について」と題して、齋藤紀医師を講師に講演会が行われました。

この講演会は、同地区が「計画的避難地域」として指定されたことを受け、切実な不安を抱えた住民の医師の話を知りたいとの要望から開催されました。

### 会場満員！町長も出席

当日は雨が降る中、100名をこえるが住民が会場の山木屋公民館につめかけ、古川町長はじめ、菅野町議、遠藤町議、町会役員なども参加。また、全日本民医連 小西緊急被曝事故対策本部長、福島県民医連 松本会長も参加しました。

齋藤医師からは、原発事故と健康被害の問題、また「避難指示」が出る中で実生活・実人生をどうするか、について話がありました。また、国や東京電力に対し人間の尊厳を守れと要求するとともに、行政単位で克服する力を自立的につくっていくことも強調されました。



住民でいっぱいの山木屋公民館

### 住民の人生や生活をかけた、命がけの声に応える

講演のあとの質疑応答では、「山木屋にいつごろ戻ってくるができるのか」「70歳になるが、この年になれば避難する必要はないのではないか」

「私は山木屋の自然の中で、自然のままで暮らしてきています。ところが避難先の仮設住宅で生活をした場合、自然の木々をわってくる風もない、山木屋のような自然がないところで生活したら、放射線の病気になる前に体を弱らせてしまうのではないか」

などの質問が出されました。



お話しされる齋藤紀医師

齋藤医師はそれらの声を率直に受け止め、寄り添いながら回答しました。まさに、住民の人生や生活をかけた、自分や家族の命や健康を守りたいという命がけの思いにこたえる講演会となりました。

## 浜通り医療生協 組合員・地域訪問行動 医学生も参加！

浜通り医療生協では全国からの支援を受けて組合員の安否確認、健康・生活相談などを含む「被災地区・組合員訪問」(第一次・4月25日～30日)にとりくんでいます。28日(木)は医学生4名も参加しました。(詳細報告は次号以降)



↑4/28朝、出発前の打ち合わせ。各県連からの支援者、浜通り医療生協職員、医学生、県連事務局員など約40名。



↑医学生はこれまでの訪問行動で相談のあった、地震でお風呂場の壁が崩れ困っているという組合員宅へ。壁を取り払い、応急処置。

